

# 日経産業新聞

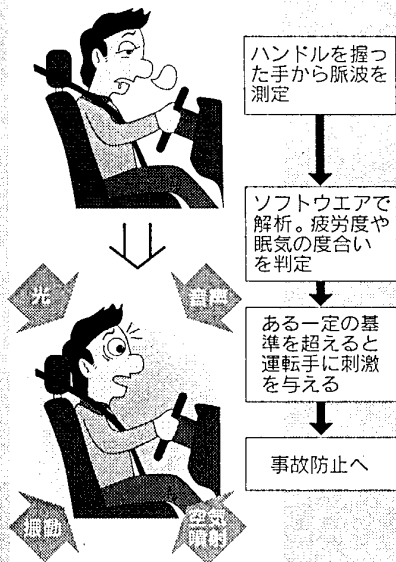
2002年(平成14年)11月29日(金曜日)

## 車運転時 眠気を警告

【福岡】ソフト開発のコンピュータコンビエンス(福岡市、野藤泰昇社長)は日産自動車、産業医科大学(北九州市)と共同で、車の運転時の疲労や眠気を測定して運転手に警告するシステムの開発に乗り出した。交通事故の防止効果を狙っており、ハンドルを握った手のひらから脈波を読み取る技術を応用、早期実用化を目指す。

### コンピュータコンビエンス・日産など

日産自動車とコンピュータコンビエンスが開発するシステム



(注)運転手に刺激を与える方法は検討中

## ハンドルにセンサー 手のひらで検知

コンピュータコンビエンスによると、脈波は心臓から血液が送られてくる際の動脈の伸縮の度合いを示す。これを「カオス理論」という数学理論を使って解析することで、自律神経がどの程度機能しているかが分かるという。

同社は大塚製薬グループと共同で、指先の脈波を解析して投薬効果を判定するシステムをすでに開発している。

車両に応用する今回は、ハンドルに導電性の高いセンサーなどを付け、運転手の手のひらから脈波を読み取る。車に搭載したソフトウェアが即時にこれを解析。運転

時にストレスを感じているか、緊張しているか、集中力が散漫になっているか、眠気を感じているかなど精神的、肉体的状態を判定する。

ある一定の数値を超えた場合、運転手に対して自動的に警告する。警告の仕方は音を鳴らすほか、空気噴射や光の放射さらに運転席を振動させることや、カーナビゲーションと連動させて音声メッセージを流すことなどを検討している。

産業医科大学がプロジェクトに参加するのは、実際に医学的な根拠を与えるため。すでに基礎技術は確立しており、今後は神奈川県横須賀市にある日産自動車総合研究所のテストコースやドライブングシミュレーターなどで実験データを積み上げていく。

コンピュータコンビエンスは一九八四年設立。売上高は二〇〇二年九月期で四億九千万円。技術者派遣が主力事業だが、最近ではカオス理論を用いた医療診断ソフトを全国で販売し、実績を上げていく。